

件 名

小・中学校等における学力向上施策について

提出理由

小・中学校等における学力向上施策について、別紙のとおり報告します。

概 要

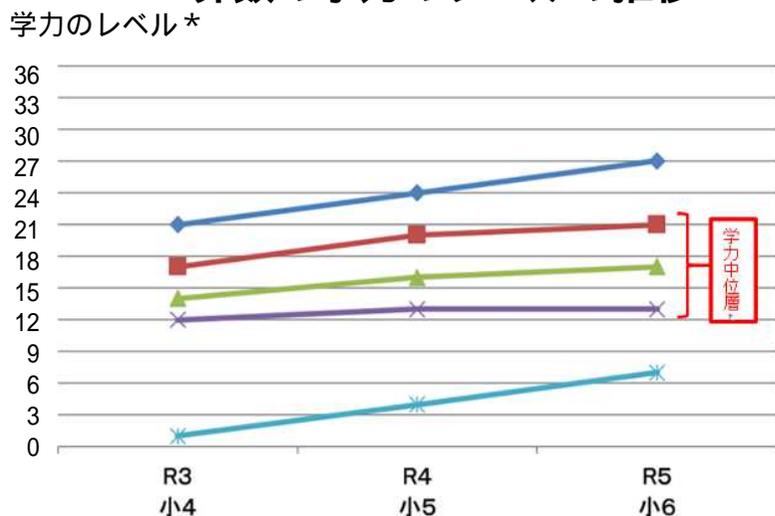
- 1 児童生徒の学力の現状と課題
- 2 学力中位層に係る現状分析
- 3 課題解決のための手立て
 - (1) 教員の「授業」を変える
 - (2) 児童生徒の「振り返り」を変える
 - (3) 行政の「視点」を変える
- 4 令和6年度学力向上に係る支援と取組
 - (1) 「総合的な支援」の主な取組
 - (2) 「重点的な支援」の主な取組

1 児童生徒の学力の現状と課題

埼玉県学力学習状況調査（以下「県学調」という。）の結果から、小・中学校ともに学力中位層の児童生徒が他の層の児童生徒と比較して、学力の伸びが小さいことが分かった。

令和5年度の学力中位層の児童生徒は、令和2年度から令和4年度にかけての学力中位層の児童生徒と比較して、学力の伸びが小さいことが分かった。

令和5年度小学6年生
算数の学力のレベルの推移



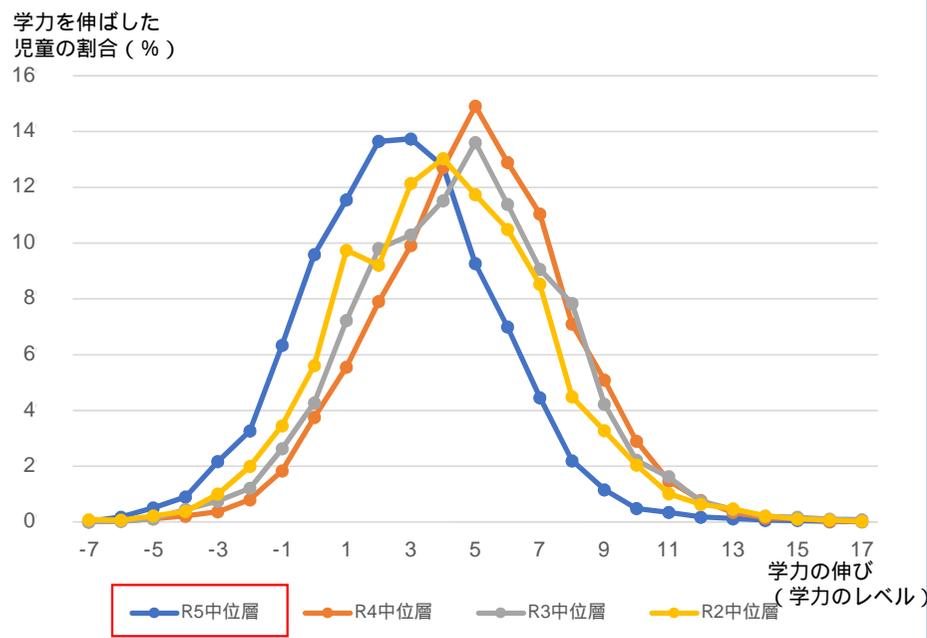
学力中位層の児童生徒

上位から25%
に位置する児童
が属するレベル

上位から50%
に位置する児童
が属するレベル

上位から75%
に位置する児童
が属するレベル

令和2年度から令和5年度小学6年生
算数における学力中位層の2年間の学力の伸び



* 学力のレベルは36段階となっており、様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力のレベルを判断している。

2 学力中位層に係る現状分析

教員の現状と児童生徒の現状を分析した結果、学力中位層の学力向上に焦点を当てた取組の研究を進める必要がある。

【教員の現状】

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」（以下「主対深」という。）を形式的に捉え、児童生徒が授業で「何を身に付けたか」を詳細に見取れていない。
- ・ 学習課題が学力中位層の児童生徒にとって簡単になりすぎている傾向がある。
- ・ 学力中位層の児童生徒への支援は、一斉指導の中で済まされ、個別の指導が十分でない傾向がある。

【児童生徒の現状】

- ・ 学習に対して受身となり、「学びたい、話し合いたい」という思いを持って学習に取り組めていない。
- ・ 学習課題に取り組む意図や目的を理解せずに、課題が解決できる又はできないといった結果を注視してしまう。
- ・ 授業で学んだことを、日常生活で生かす視点を持つことができていない。

3 課題解決のための手立て

教員の「授業」を変える

- ・ 「主対深」の視点から、特に学力中位層の学力向上に効果的な「深い学び」に焦点を当てた授業改善
- ・ 全ての児童生徒が学習課題の解決に挑戦できる授業の構築



児童生徒の「振り返り」を変える

- 「何のために学ぶか」
 - 「何が身に付いたか」
 - 「身に付いたことをどのように生かすか」
- を明確にした振り返りの充実



行政の「視点」を変える

学力層に着目した学力向上施策の実現



教員の「授業」を変える

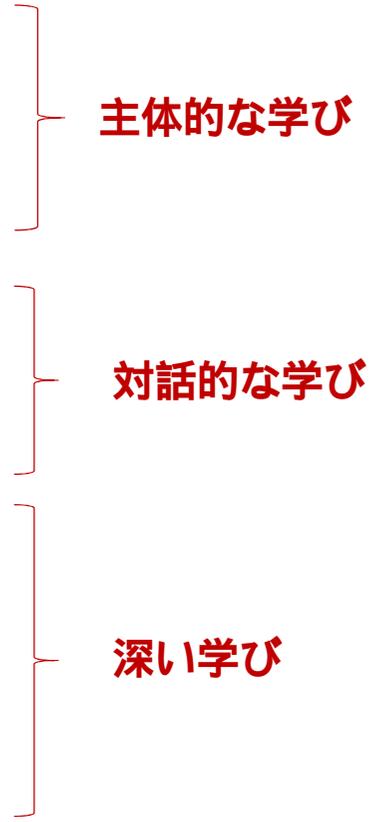
「主対深」の視点による質問調査を活用した授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

それぞれの項目について、⑤～①で回答する。(⑤よくあった ④ときどきあった ③どちらともいえない ②あまりなかった ①ほとんど、またはまったくなかった)

番号	教員用質問調査
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気をつくれるように工夫したこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと
7	授業を通して学習した内容について、さらによく知りたいたい、学びたいと思うような工夫をしたこと
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること

番号	児童生徒用質問調査
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
7	授業を通して学んだ内容について、さらによく知りたいたい、学びたいと思ったこと
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと



単元ごとに育成したい資質・能力を明確にした上で、学習課題を工夫し、全ての児童生徒が学習課題の解決に挑戦できる授業の構築

< 学習課題設定の工夫例 >

「 $13 - 9$ の答えを求めましょう。」と単に引き算の答えを求めるのではなく、「 $13 - 9$ のような計算は、どのように考えたら答えが出るか考えよう。」と投げかけ、**答えに至るまでの多種多様な考え方を学ぶ**ことで、桁が大きな引き算や一問一答ではない、文章問題でも答えを求めることができるような考える力を育成する。



< 授業形態の工夫例 >

県学調の結果を分析し、児童生徒個々の学力・学習方略・非認知能力を把握した上で教員が意図的にグループやペアを設定する。様々な学力層の児童生徒のグループを設定した場合、**中・上位層の児童生徒は下位層の児童生徒に説明をすることで学習内容を再確認したり、下位層の児童生徒は解決方法を模倣したり**することで、学習課題の解決につながる。



児童生徒の「振り返り」を変える

< 小学校書写における授業(例) >

試書と比べて良くなった点から、学習で身に付いたことや今後に生かすことなどについて考えられるようにする。



< 児童の振り返り(例) >

「はじめて書いた字と今日書いた字をくらべました。『おれ』や『はね』の方向に気をつけて書くとよく書けるとわかりました。ノートや手紙を書く時にも、『おれ』や『はね』に気をつけて書いていきたいです。」

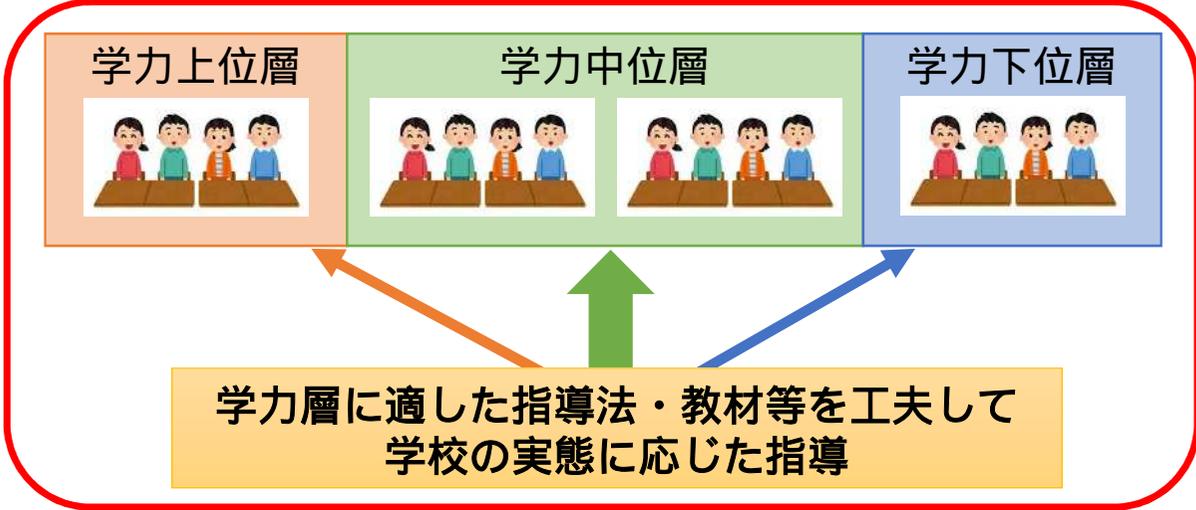
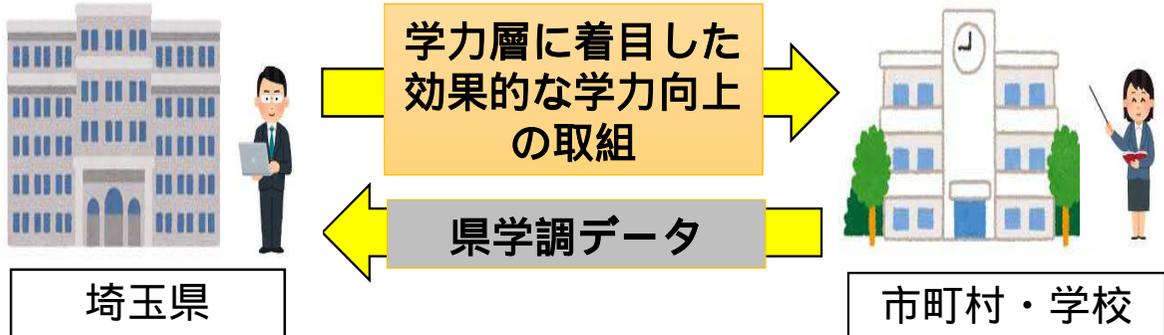


「自分が学んで身に付いたこと」「自身の変容」について児童生徒が自分の言葉で振り返るようにする。

学習したことの目的や意味を自分事として捉え、次の学習へつなげたり、日常生活に生かしたりすることができるようにする。

行政の「視点」を変える

学力層に着目した効果的な学力向上の取組を市町村・学校に提示する。



4 令和6年度学力向上に係る支援と取組

総合的な支援

埼玉県

重点的な支援

- ・全ての小・中学校等、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組共有の促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまずきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

主な取組

学力向上推進協議会の実施

県学調結果の分析や効果的な活用のための支援

優れた指導技術の共有・普及
(映像)

優れた指導技術の共有・普及
(アクションリサーチ)

市町村・学校



主な取組

県学調結果に基づく市町村や学校に対する支援

「未来を生き抜く人財育成」
学力保障スクラム事業

学力向上研究校指定事業

学力向上プロジェクト教員の配置

児童生徒一人一人の学力向上

「総合的な支援」の主な取組 優れた指導技術の共有・普及（アクションリサーチ）

事業概要

大学の教授等による管理職・
教員に対する指導・助言

管理職・教員の変容とそれら
を通じた児童生徒の変容

管理職・教員の変容から、効
果的な指導方法の抽出・県内
へ普及



<手法 A >
教員に対する県
学調活用や「主
体的・対話的で
深い学び」の授
業改善

<手法 B >
管理職に対する
中位層の学力向
上の取組や研修
プログラムの活
用

令和 6 年度の取組

- ・ 参加した大学教授等：5 名
- ・ 実地による指導回数：36 回

- ・ 対象管理職：2 名
- ・ 対象教員：8 名
- ・ 成果報告会の実施により効果的な取組を共有・普及

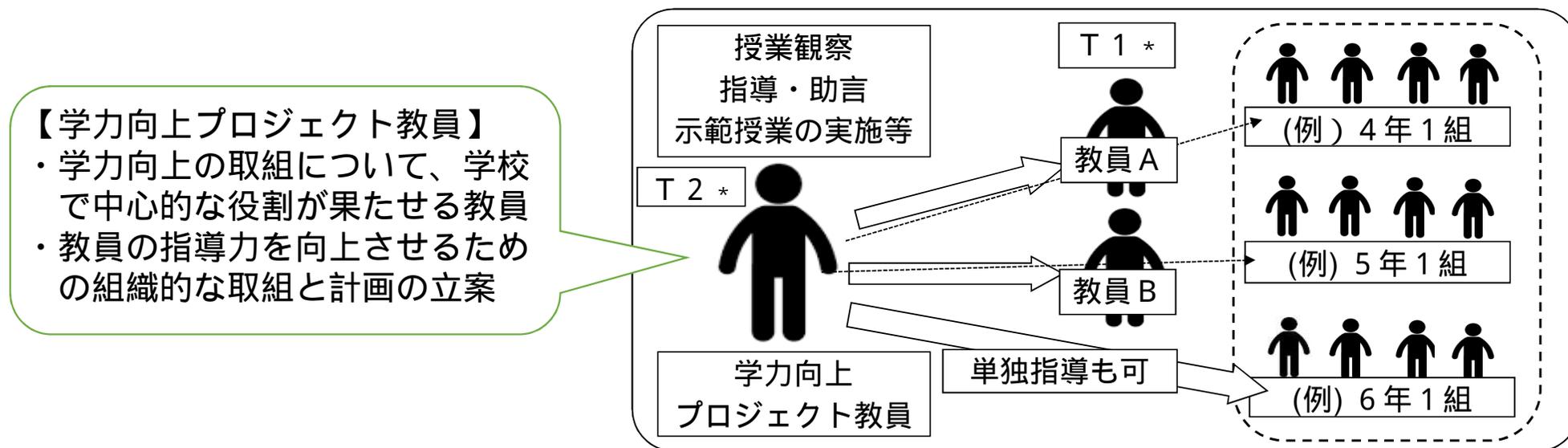
「重点的な支援」の主な取組 学力向上プロジェクト教員の配置

事業概要

学力向上プロジェクト教員が、「主対深」の視点による授業改善に向けて他の教員を指導することで、他の教員の指導力を向上させ、学力中位層の児童生徒の学力向上を図る。

実施校での取組内容

* T1・T2とは、チームティーチングでの指導者を表しており、複数の教員で学級の授業を担当する。



令和6年度の取組

- ・学力向上推進協議会において、効果的な学力向上の取組の共有・普及
- ・実施校：27校（小13校・中14校 昨年度より2校増加）